

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-C-6		更新日	2025/2/20
サイト名		やかみひめ 神代八上姫を癒し現代に続く日本三美人の湯～湯の川温泉			
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他			
	所在地	出雲市斐川町学頭湯の川温泉周辺			
	指定別				
	種別				
	指定／登録年月日				
	管理団体／モニタリング				
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(台) 山陰道 斐川インターから約6km、約10分。			
留意点	2022(令和4)年度にジオサイトから文化サイトに見直した。				
サイトの解説	歴史・文化	湯の川温泉は、和歌山県龍神温泉、群馬県川中温泉と並んで日本三美人の湯として女性に人気の温泉である。 「火の山の ふもとの湯こそ 恋しけれ身をこがしても 妻とならめや」 神代の昔、出雲からやってきた大国主命(おおくにぬしのみこと)と恋に落ちた稲羽の国の八上姫は、命に和加須世理比売命(わかすせりひめ)というお妃があることを知らず、出雲の国に帰られた命を慕ってはるばる旅に出られた。かよわい足取りで厳しい旅を続けられ、宍道湖を船で進まれた八上姫は、南の山の谷あいには湯気を立ち上がっているのをご覧になった。湯の泉があるに違いないと近づいてみると、岩の間からこんこんと湯が湧き出ている。旅の疲れをその温泉で癒された八上姫は心身ともに元気になられ、いっそう美しい美人神になられたと伝えられている。冒頭の歌は、稲羽の国に帰られる時に、ふたたび湯の川温泉に立ち寄られた八上姫の歌である。			
	地形・地質、生物・生態等	源泉は単純温泉であるが、弱アルカリ性で泉質のよさから、古くから親しまれていた。1992(平成4)年には新源泉の掘削(深度1,200m)が行われ、基盤の花崗閃緑岩から50℃近い、濃度の高い温泉(溶存物質量が1761 mg/L)が開発された。これに伴い温浴施設の整備も進められ、豊富な湯量を生かして源泉かけ流しの湯として活用されている。玉造温泉、松江温泉、嫁島温泉、そして湯の川温泉など、低地帯に源泉温度が高いものが分布しており、これらは低地帯形成にかかわる地質構造に沿った熱源によるものとみられている。			
写真・図等		湯の川温泉入口 道の駅湯の川 足湯			
参考文献					